

カーネーションのフサクビヨトウの発生について

1 発生の経緯

平成 24 年 9 月上旬に、県南部の施設栽培のカーネーションにおいて、鱗翅目幼虫による花蕾内部への食入加害が確認された。幼虫では種を判別できなかったことから、幼虫を採集、飼育し、羽化した成虫を横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、平成 25 年 2 月にフサクビヨトウ *Sideridis honeyi* (Yoshimoto) であることが確認された。

2 発生状況

- (1) 発生作物 カーネーション
(2) 害虫名 フサクビヨトウ
 Sideridis honeyi (Yoshimoto)

3 形態

- (1) 本種はヤガ科ヨトウガ亜科の一種である。
(2) 成虫は開張 32mm 程度、頭部、胸背部には黄褐色の毛が多く混ざり、楔状紋は大きく、腎状紋、環状紋も黄白色の縁取りがあり明瞭である。後翅は一様に暗褐色をしている。
(3) 孵化幼虫～3 齢幼虫の腹部は一様に淡黄緑色で、老熟幼虫は体長 40mm 程度で体色は淡緑色または黄褐色でイモムシ状である。背面に斜めの黒い斑紋を各体節に有する。



図 1 幼虫（各体節に斜めの黒色斑紋）



図 2 蛹殻と成虫

4 被害と生態

- (1) 本種は九州以北の日本各地に分布し、被害は 5、6 月と 9 月にみられる。
(2) 幼虫は、カーネーション、フシグロなどのナデシコ科を食草とする。幼虫は新芽に食入して芯枯れを起こし、他に葉の食害、花蕾に食入して開花を不能にする。

(3) ヨトウムシ類の一種で、若齢幼虫までは新芽に食入するが、老齢幼虫になると日中は株際などに潜み、夜間現れて葉を食害する。成虫は夜間活動して葉や花蕾に点々と産卵し、雌成虫1頭で数十～数百の卵を産むといわれる。温室内では年4～5世代を繰り返すが、野外では年2回、6～8月に発生する。

5 防除対策

- (1) 発生初期にヨトウムシ類に登録のある薬剤で防除する。
- (2) 施設内への成虫の侵入を防ぐため、4mm目合の防虫網を設置する。

表 カーネーション及び花き・観葉植物でのヨトウムシ類の登録薬剤

系統名	薬剤名	使用時期	使用回数	倍率
ピレスロイド	アグロスリン乳剤	発生初期	6回以内	2000
	アディオン乳剤 ^{*2}	発生初期	6回以内	2000
有機リン	オルトラン水和剤 ^{*1}	発生初期	5回以内	1000
カーバメート	ラービフロアブル ^{*1}	発生初期	6回以内	750
マクロライド	アフーム乳剤 ^{*1}	発生初期	5回以内	1000
昆虫成長制御剤(IGR)	ノーマルト乳剤 ^{*1}	発生初期	2回以内	2000
その他	コテツフロアブル ^{*3}	発生初期	2回以内	2000

平成25年2月13日現在の登録薬剤より抜粋

注) *1は「花き・観葉植物」、*2は「花き・観葉植物(はばたんを除く)」、*3は「花き・観葉植物(きく、ストックを除く)」での登録。

この害虫に関するお問い合わせは下記まで

宮城県病害虫防除所予察班

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号(宮城県仙台合同庁舎内)

TEL 022-275-8982, FAX 022-276-0429

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/index2.html>

宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部

〒981-1243 名取市高館川上字東金剛寺1番地

TEL 022-383-8125, FAX 022-383-9907

http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/